

ATTENTION

バフェットの日本の商社株買いの実態

パークシャー・ハサウェイの保有比率推移

	伊藤忠商事	三菱商事	三井物産
2020年8月31日	5.02%	5.04%	5.03%
2021年12月31日	5.6%	5.5%	5.7%
2022年11月21日	6.21%	6.59%	6.62%

商社株投資の株価上昇率

	2020年8月31～ 2022年11月30日 株価上昇率
伊藤忠商事(8001)	57.4%
三井物産(8031)	2.08倍
三菱商事(8058)	83.3%
住友商事(8053)	63.5%
丸紅(8002)	2.42倍

配当利回り

	取得当初 配当利回り	取得ベース現在 の配当利回り
伊藤忠商事(8001)	3.23%	4.8%
三井物産(8031)	4.44%	6.8%
三菱商事(8058)	5.33%	6.8%
住友商事(8053)	5.09%	6.9%
丸紅(8002)	5.16%	10.2%

バフェット率いるパークシャー・ハサウェイによる日本の5大商社株買いが明らかになったのは2020年8月。そしてこの度、当時の5%超の保有比率が5社とも6%を超える保有比率となる買い増しを発表しました。今度もこれを歓迎して、株価は急騰。そこで、バフェットの商社株買いの実態を見てみましょう。2020年8月に最初の買いを公表してから、5大商社の株価は50%超～2倍超に大幅に上昇しました。現在の時価評価額は合計1兆6000億円超。そして興味深いのは、パークシャーはこの12月まで1兆円を超える5回の円債を発行していることです。その利率は、ほとんどが小数点1位の利率。さすがはAAの格付けを持つ優良会社です。さて、この債券で得た資金は商社株買いに重要な役割を果たしています。当初買付時の商社株の配当利回りは、その後の増配により今では6%超に上がっているのですが、借入金利がゼロコンマ以下と低く、6%もの利ザヤになっているのです。さらに商社株買いの為替リスクを、円債の借入れで失くしています。2020年8月には1ドル106円程度でしたから、現在の1ドル135円の30%近い円安をヘッジしているのです。バフェットは、商社株をさらに9.9%の保有比率まで買う意向を示しています。まさにバフェットの慧眼おそれるべしです。

COLUMN

ぐずぐずやらないのは怠情だからではない

なかなか物事を始められないで、ぐずぐずしていることはよくあります。これが往々にして「怠情」と捉えられがちで、自分でもそう思ってしまう。しかし、これは何も怠けているからではないのです。これを科学的に分析したレポートがありましたので、紹介しましょう。「ふーん、こういうことなんだ」と、きつと納得できると思います。

なかなかやり出せないのは、脳が、まだやるには情報が不足していて、もっと掘り下げろといっているサインです。完璧にやらなければならないという意識とか、戸惑い、課題に対する無関心、不安なども、先延ばしの原因です。なにも「怠情」によるものではないのです。

そういう時に、まず手を付けられるところから始めるのが、一つの手です。もしテーマが広すぎたり、ぼやけていたりしたら、絞って焦点を当てる、テーマを細分化してできるところからやる。クリエイティブな仕事だったら、インスピレーションが湧くまで時間をかける。またそれをやるレベルに達していないと思っていたら、レベルを上げるようにトライする。いわば、踏み出せないことが、自分を高めるきっかけになるのです。

なかなか踏み出せないのは、脳が、まだやるには準備が不足している、あるいは、やり方や課題の認識をもっとはっきりしろと言っているのです。このようなマインドセットを持つと、仕事や物事への取り組みがよい方向に行くのでしょうか。

参考図書：The Real Reasons You Procrastinate at Work

MARKET

(11月末)

(10月末比)

日経平均

27,968.99円  +381.53円
(+1.38%)

NYダウ

34,589.77ドル  +1,856.82ドル
(+5.67%)

米ドル

138.15円  -10.65円
(-7.16%)

私の書棚より

All I want to know is where I'm going to die so I'll never go there.

私を知りたいのは、どこで死ぬかだけ。そうしたら絶対にそこには行かない。

-チャーリー・マンガー(来年1月で99歳)

ウォーレン・バフェットの盟友

日本の凋落は、救いようがないところまで来ている

国が亡びるのはこういうことかというところまで、日本の状況は来ているといわざるを得ません。こう書くのは非常に残念ですが、あえてどういふことを披歴しましょう。

この頃は、日本株はろくに見なくなってきました。あえて言えば、「朝見て終わり」。米国市場が上がっていれば上がり、下がっていれば下がり、あとは終わりまで静かなものという状況です。株式市場は、国の鏡といってもよいのですが、ますますその停滞ぶりが、色濃くなっています。日本株に見切りをつけ、米国株に向かう傾向が強くなると、それを問題視する声があるようですが、そういう声の発信元こそ、日本の問題をほったらかしにしてきた政治家や役人です。日本株がどうしようもないから米国株に向かうのです。日銀は、50兆円も買った日本株ETFの買いをパタッとやめてしまいました。いくら買っても株を上げる効果がないのが、今さらながら分かったのでしょうか。あまり問題になっていませんが、日銀が持っているETFのコスト(信託報酬)は、毎年700億円にもなります。これから持ち続けられれば、その年数で積みあがっていきます。10年持っていれば7000億円のコストは、株自体を持っていれば(もちろん可能)、払わないで済むものです。そして、このコストは、結局は国民が払っているのです！

何とかしなければいいながら、すでに30年たつのですが、やることは小手先ばかり。やったつもりでほったらかし。やったふりをしているといっても過言ではありません。規制緩和、構造改革など、過去のことと、放り出されています。数年前には、国の債務の膨張を何とかしなければ

という危機感がありましたが、今では、国債をどんどん発行すればいいという状況です。今は国債の金利がゼロ金利に近く、利息は払っていないに等しいですが、いったん金利が2、3%でも上がれば、その負担は一気に莫大なものになります。想像すると背筋が寒くなってきます。後に続く世代がかわいそうというのが実感です。

さて、次は日本企業です。こちらモラルの欠落は深刻です。超大手企業で相次ぐ不正事件。ある企業では、社長が課長だったときに始まった不正が、いままで続いていたというのです。こうなると、社長は隠す側に回りますから、自浄作用など働くわけがありません。大手電力数社(関西以西の全部の電力会社)が電力自由化に逆行し、お互いの地域に進出しないカルテルを結んでいたとのこと。この罰則の課徴金が1,000億円とのこと。さらに、投資家にニンジン見せながら、それをあげない芸当をやっています。寿司チェーンが、寿司ネタ特売を餌にして、行ってみればないというより、もっと悪質で、これだけ買いますという自社株買い枠を設定しながら、その枠を消化しきらないで終わってしまうというケースが多発しているのです。いわば投資家への目くらまし。さらには、30年以上も問題になっている「株の持ち合い」。その解消は遅々として進まず、相変わらず隠れた持ち合いは多く、企業の馴れ合いは続いているのです。

「だめだ、こりゃ！」というのが実感です。企業や役人は、「投資家、国民に見放されたら、おしまい」ということにそろそろ気づくべきです。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品をお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp